



あいち健康の森公園にて  
～今年も元気な鴨の親子の姿がみられるでしょうか～

## 2003年の新春を迎えるにあたって

～共和病院のめざす精神科医療の方向性について～

院長 榎本 和

21世紀の精神医療は 消費者中心の医療体制 医療情報の開示、利用者が医療機関を選択するなど掲げられており病院は利用者の満足を得るための良質な医療を提供しなければならないという方向性が示されています。昭和63年に精神保健福祉法の改正がおこなわれて以来、平成5年からこの10年間に3回もの法改正がおこなわれました。この改正のたびに心を病み入院している方達の人権の擁護、処遇は著しい改善をみました。

各精神科病院は入院期間を短くすることを目指していますが、一方では長期に入院している方が停滞し、かつ高齢化もしています。厚生労働省は精神病床入院患者、約33万人の内7万人の人を退院させるという方向性を打ち立て、平成11年の医療法改正ではとりあえず精神病床の機能分化を求めています。

基本的な方針としての手厚い医療をおこなう病床(急性期・重症・児童思春期・薬物・身体合併症)リハビリテーションを含めた医療をおこなう病床、さらに長期入院の方の処遇を考え、療養型病床を社会復帰施設に転換する方策も考えられているようです。このような日本における精神医療の現状を踏まえ、共和病院はどのような方向性を持つのかについてお話してみたいと思います。

平成15年8月頃には現在建築中の新病棟が竣工する予定です。その後、数ヶ月かけてA館・B館を改築します。改築が完了した時点で病棟機能は、急性期治療病棟・老人性痴呆治療病棟・精神科療養病棟(長期入院を含む)・社会復帰病棟・ストレスケア病棟(個室特別病棟を含む)となり精神科病床は251床、介護保険適用療養病棟が52床から80床となり、一人あたりの病床面積が6.4m<sup>2</sup>以上と、かなりゆとりのある落ち着いた治療環境を提供することが出来ます。

当院の特徴として、外来通院者数が多く都市型病院の様相を呈し

ており、外来に受診される方は狭義の精神疾患のみではなく、まさに心の時代を反映するような鬱病や悩み事相談などメンタル・ヘルスの領域に広がっています。社会復帰に関する取り組みとしては、すでにあるデイ・デイナイトケアの充実を図り、15年1月より50人から70人規模へと拡大いたします。これに加え二つのグループホームを備えています。さらに社会的入院の方のために、2年後には「福祉ホーム」を開設したいと考えています。共和会関連施設としては訪問看護ステーション「ソレイユ」居宅介護支援事業所「菜の花」福祉用具貸与事業所「なでしこ」なども少しずつ充実し、利用者の方の地域自立生活のお手伝いができるようになりました。精神障害の方に対しては、大府市の協力のもとに開設された「憩の郷」の精神障害者通所授産施設(ワーキングスペースおおぶ)、精神障害者地域生活支援センター(キャンパス)などとの連携を取り、当院からも沢山の方が利用しています。

すでに述べましたように厚生労働省は7万人の人々を社会復帰させる方針のもとに、平成14年度から各市町村において居宅生活支援事業が開始されています。例えば住居の確保について、グループホームだけではなく公的住宅や民間賃貸住宅に円滑に入れるような仕組みを作ることや、訪問看護の普及、地域生活をしている方達の病状悪化の対応について精神科救急医療の充実などに力を注いでいるようです。いずれにしても障害者の方達が安心して生活するためには、居場所はもちろんのこと、マンパワーを必要とします。しかし医療経済から見て、とても満足できる数だけの援助者を配置することはできません。したがって今後も引き続き、地域の関係機関、ボランティアグループとの連携をはかりながら地域ぐるみで心の病を持つ方達の治療、及び生活支援をおこなっていきたくと考えています。



## 介護サービス評価をうけて

中井 恵子

昨年10月に知多北部広域連合内において、介護サービス事業者を対象に、介護サービスを提供する業者自身の「自己評価」と、そのサービスをうけておられる利用者の方々による「利用者評価」が実施されました。この評価制度の目的は、介護サービスをうけておられる利用者の方や今後サービスを利用しようとしておられる方々が、よりよい事業者を選ぶための参考となるものです。そして、サービス事業者においては、更なる介護サービスの質の向上を図るためのものです。

勿論、わたくしたち訪問看護ステーション「ソレイユ」、指定居宅介護支援事業所「菜の花」もこの評価をうけました。開設から3年、どうしたらご利用者さまひとりひとりにとって、よりよいサービスの提供ができるのか試行錯誤しながら3年の時が過ぎました。この間、ご利用者さまからは未熟なわたくしちに、時には厳しく、また愛情あるご指導を頂き、多くのことを教えていただきました。一つひとつの課題を解決していく中で4年目を迎えようとする今、この評価をうけることにより、あらためてこれまでの3年間を自ら振り返る機会となり、またご利用者さまからわたくしたち事業所に対する率直なご意見や評価を得る良い機会になりました。

実際に評価を行ってみて感じたことは、自己評価において全てよしというものではありませんでした。概ね出来ているというのが現状です。その結果は、ご利用者さまの評価に端的に現れていると思います。一つひとつの評価項目については、高く評価して頂いている分野もありましたが、訪問看護ステーションの場合には、まだまだ不十分な点も多く、利用手続きに関すること、

安心できるサービス体制について課題があるものと思われます。今後のサービス提供における問題点として、改善に取り組んでいきたいと思っています。

わたくしたちは、ご利用者さまとの交流を通して、病気や障害に負けない笑顔と出会えることの素晴らしさを学びました。事業所一同、皆さまとの出会いを大切に、皆さまから選んでいただける事業所として、信頼され満足していただけるようなサービスの提供に努めていきます。そして、より一層多くの方に利用していただけるよう努力いたします！

\*

この評価結果は広く公表されるもので、市町村の介護保険担当窓口や評価に参加した各事業所の窓口、広域連合の

ホームページ

<http://www.chitahokubu.or.jp/>

でもご覧いただけます。

～スタッフからの一言～

ケアマネージャー 湊美

「フットワーク軽く」をモットーに介護の様々な相談にお応えできるよう努めます。

看護師 野中

安心した療養生活が送られるように、少しでもお手伝いできたら良いと思います。笑顔で元気に頑張ります！

看護師 大島

住み慣れた家で安全・安楽な生活が続けられるよう、家族の方と仲良く支援させて頂きたいと思っています。

看護師 石那田

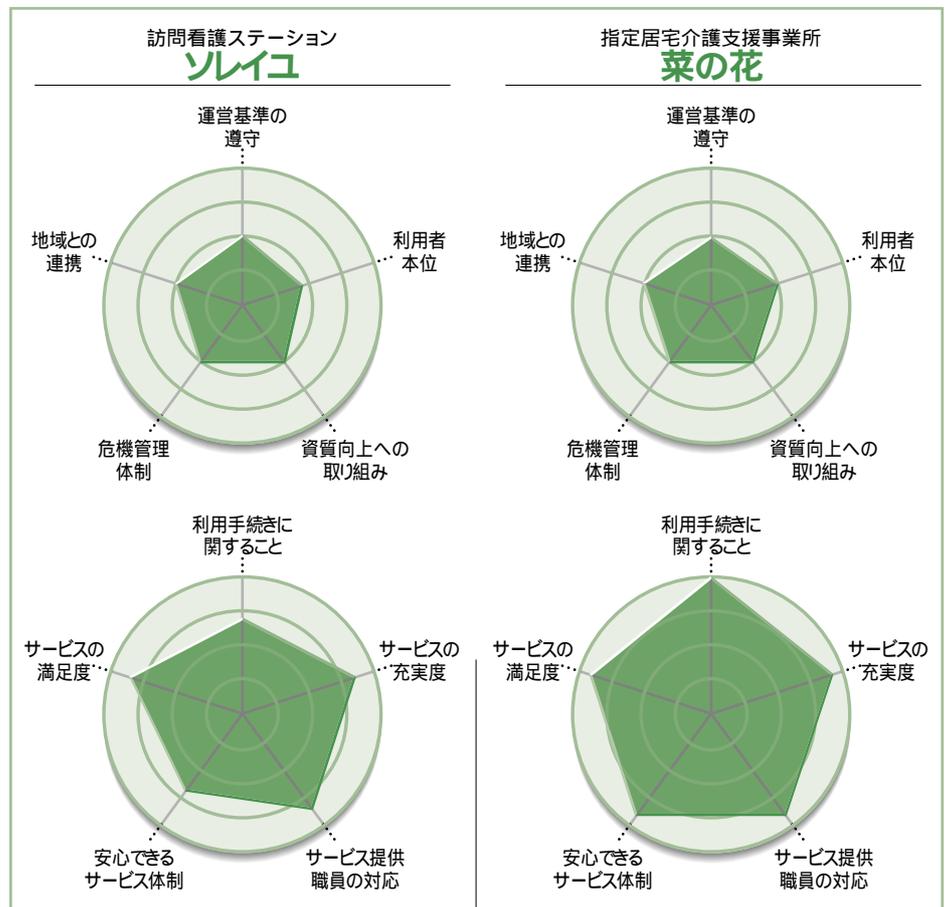
「いつまでも家にいたい」という気持ちを大切に、喜んで頂けるように家族の方と共に頑張っていきたいと思っています。

理学療法士 老岐

利用者様に「訪問リハビリを受けて良かった」と云われるように頑張ります。

作業療法士 朝倉

在宅生活のサポーターとして、皆さまのご期待に応じられるよう頑張ります。



## 気持ちはいつも プロジェクトX Project X

『どう造る』から『何を創るか』の発想のもとに、病院の皆さま及び患者さまが安心して満足し誇りをもって使うことが出来る建物を提供する為に病院担当スタッフの方々と定期的検討会を実施し、1年以上の永きにわたり現場事務所に常駐して、皆さまの良きパートナーとして共同作業をさせていただきます。より良い機能を考え、ニーズに対応する良質な医療の提供及び患者さまのアメニティー向上と高齢者の方々を対象とした病棟の建設、療養されている患者さま、また地域に住む心を病んだ方々及び高齢者の方々



のためにより良い病院となるべく、設計監理の(株)山下設計中部支社及び施工担当の(株)大林組名古屋支店と設備施工協力会社の中央電気工事(株)・三機工業(株)の強力なチームワークのもと、『いつも元気に朗らかに』を合い言葉に、プロジェクトを推進して行きます。またどんな現場でも大なり小なり問題が発生してきます。様々な問題に直面しても、多方面から検討し、問題の本質を見極め、皆でアイデアを出し合いそしてアプローチしていく、物造りの醍醐味とも云えるもので、規模に関係なくどんな現場でも「気持ちはいつもプロジェクトX」なのです。工事中の安全確保、最新の技術や適切な技術・機材の導入、創意工夫による効率的な作業等を通じて、少しでも共和会の理念達成に寄与できるようスタッフ一同誠心誠意このプロジェクトに邁進していきたいと思っております。

工事中は何かと皆様方に迷惑をおかけしますが、明日の病院の良質医療の為、御協力を切にお願い致します。

## 編集委員になって

松下 直美

**それは、突然でした。**「あなたが日本精神科看護協会(日精看)愛知県支部編集委員をする事になったわよ」と役員会に出ていた佐藤看護次長から、言われたのは。「えーっ何で私が??」と言う私に「良いじゃない...男の人ばかりで色気が無いから女の人大歓迎だそうよ」との返事。女と言ってもなあ...と思いつつ、初回編集会議に参加しました。編集委員の仕事は年に4回発行する日精看の愛知県支部ニュースの発行です。そのために県内病院の代表7人が持ち回りで研修等の取材に行き、参加者に投稿依頼をします。そして集まった原稿を持ち寄って編集会議で紙面構成を考えます。引き受けたからには、やるぞ~と燃え、いざ、デジカメ片手に研修の取材!なかなか全体の雰囲気伝わらない良い写真は撮れません。さらに、研修参加者に感想の投稿依頼をしても断られる事しばしば。でも数を当たれば時には気のいい看護師さんが執筆に了解してくれます。参加者と一緒に研修で勉強させてもらい、文才の無い頭をひねって、研修紹介の文面を作ります。そうして編集会議に原稿を持ち寄り紙面づくりです。手馴れた先輩委員達は手際よく紙面構成をし、デジカメ写真のパソコン取り込みをしていました。会議約2時間半で紙面づくりを終え、印刷業者への引継ぎとなります。役員になってみて、編集のノウハウは大変勉強になります。予め紙面の文字数にあわせた原稿を流し込む作業はマジックのようです。さらに他の委員の人達から色々な情報が得られる事は糧になります。どの病院も患者様の人権を守る為に今までとは違い個々の看護を見直している事は医療の現場に携わるものとして刺激になります。そして、共和病院も看護のレベルは高いから、更に患者様が安心できる治療環境ができるように工夫をしようと思うのです。また、病院によっては、研修に際して研修費も全額自己負担、出張扱いしてもらえず代休等で参加している病院が多いようです。その点当院は恵まれています。来年度は当院での会員数をもっと増やして、研修会に皆でドーンと押しかけましょう。外にも目を向ける事できっと今まで気付かなかった自分を見直せるはず。さて、他の編集委員からは「初の女性が来るという事でちょっと緊張したけれど、良かったわ。あんたなら男と同じくらい気を使わなくてすむわ!!」と呆れられてスタートしました...職場には迷惑をかけますが、もう暫く続けさせて頂こうと思っています。

### 編集後記



広報誌も4年目に突入。時には、近所の子供さんにモデルになって貰い休日に表紙の写真撮影に出かける事もありました。原稿締め切りギリギリで焦る事もしばしば。しかし、1つの物をつくり上げる事に喜びを感じ、出来上がった広報誌は未熟な我が子のように愛着を感じます。

今年のカラーは癒しのグリーンで決まり。また明るい話題が少ない昨今、せめて皆さまに福でもお届け出来るようにラッキーカラーの「グリーン」にて今年も広報誌をお届けいたします。今後とも少しでも共和会の様々な情報が届けられるよう「WA!」が皆さまとの架け橋になればと願っています。

# 徒然なるままに

名誉院長 加藤 邦之助

## ～博物館明治村～

犬山に明治村が出来たのは確か昭和40年だったかと思います。明治時代の重要文化財としての建物が移築保存されていて、一日歩いて廻っても見切れないくらい沢山の文化財が広大な入鹿池の畔に点在しています。

最初に行ったのは開村してから4年後、明治村の正門に私の母校である旧制第八高等学校の正門が移されたと新聞のニュースで知った頃でした。それで是非青春時代の思い出の門に逢いたくなり出かけたのですが、行ってみて昔懐かしい赤煉瓦の校門よりもっと私の心をつらえたものがあつたのでした。

それは夏目漱石が一時仮寓していた家がやはり移築されていたことでした。明治村正門を入れて一番近い大井牛肉店の牛鍋の匂いをかぎながら東南の道をしばらく行ったところがありました。瓦葺平屋の建物で書斎の畳の間の広々とした中央に古い大きな文机が置かれて部屋の外には板の縁側を隔てて庭が造ってありました。その縁側に腰を下ろして庭を眺めたら丁度目の覚めるように紫の菖蒲が咲き揃っていました。漱石もこの書斎の机に頬杖突きながら庭の花でも眺めていたのかなと想像したら、たまたま嬉しくなって一句作ったのがこんな句でした。

「漱石の 住みし居間より みる菖蒲」

その上この家には森鷗外も住んでいたと説明がしてあり一層深い感銘を覚えたのでした。

平成12年、共和病院の広報誌創刊号より漱石の句を毎回解説することになり、最近ふと鷗外と漱石の二人がこの家を何年頃に借りて住んでいたのかと二人の文豪の年譜等を調べてみましたら、次のようなことが分かりました。

明治20年中島襄吉医学博士が新居として

建てられたが、どのような訳があつたのか空き家となっていたのをドイツの留学を終えて帰国した鷗外が明治23年から1年半借りて住んでいて、その後同じ本郷千駄木町の新居に移り住んだのが観潮楼で、その住居跡は文京区立鷗外記念本郷図書館として現在も残っています。鷗外が観潮楼へ移ってから10年余経って漱石も亦英国留学から東京へ帰り、仮寓を探していて鷗外が借りた家を見つけたのでした。つまり明治36年3月から40年9月の4年半牛込の早稲田南町に転居するまでこの家に住んでいた事になります。二人共に洋行して帰国後に仮住居した家が同じこの明治村の家であつたというのは大変興味深いことです。しかし、其処での生活は鷗外にとって新妻との離別当時の单身生活であつて、後世に残る様な評論・小説は出来なかつたようです。一方漱石はといえば、この家に住んで2年後の明治38年に「吾輩は猫である」39年には「坊ちゃん」「草枕」40年には「虞美人草」を創作していて、鷗外よりも有名な明治の文豪となってしまいました。

「吾輩は猫である」の中で「書斎は南向きの六畳で、日当たりのいい所に大きな机が据えてある。只大きな机ではわかるまい。長さ六尺寝台兼机として製造せしめたる稀代の品物である。」と猫が珍野苦沙弥先生の書斎のことを話している。無論、漱石は明治村のこの書斎をモデルにして猫に話させたのだと思います。

以上色々なことが分かってきました時、今一度明治村へ出かけて行って、あの室の縁側に腰を下ろして、苦沙弥先生即漱石が机に向かって白髪の鼻毛を抜いている姿でも思い浮かべて楽しい一刻を過ごしてみたいものと、徒然なるままに頻りに考えている次第です。



### 共和会理念

#### 『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは！  
患者様に安心と満足を提供する医療  
良質且つ効率的な医療の提供  
患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは！  
毎日の出勤が楽しくなる職場  
職員のレベルアップと仕事の充実が  
感じられる職場  
職員の満足が患者様へ反映される職場

### 基本方針

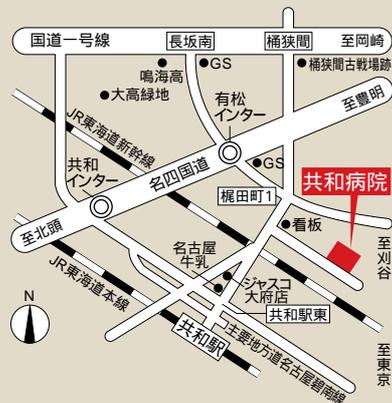
#### ～当院をご利用の皆様へ～

わたしは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)  
URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名譽院長  
加藤 邦之助

行く年や  
猫うづくまる  
膝の上 漱石

明治二十八年、正岡子規が松山の愚陀仏庵に入り込んで来てから、漱石は俳句に熱中しはじめ、その年四百六十二句、翌二十九年四百八十七句、三十年二百六十六句を作り、世間から俳人と認められるようになりました。この句は明治三十一年、一番脂の乗り切った頃の句であります。

漱石と云えば誰でもすぐ、「我輩は猫である」を思い出しますが、この句はそれよりも八年も前に出来た句です。猫の句は彼の生涯に作った約二千五百句の中、八句位しか見つけられません。またこの句の後には句も見つけませんでした。飼っていた犬には名前も付け、その犬の死んだ時には墓も造つたのに、漱石はあまり猫を好きでは無かつたのでしょうか。もっとも、「我輩は猫である」の猫に名前を付けなかつたのは、主人公の珍野苦沙弥先生でありましたけど...